

母と子のにわ

—利用者みなさまと大阪母子医療センターをつなぐ—

vol.52 Winter / 2022.12.20

Web版はこちらから▶



今年も多くのご支援をいただき ありがとうございました



総長 倉智 博久

今年も、皆さまの暖かいご支援のおかげさまで、当センターは様々な面で発展することができました。ありがとうございました。「母と子、そしてご家族が笑顔になっていただけるよう質の高い医療を提供し続けること」が私たちの基本理念であり、使命です。来年も職員一同心を合わせてがんばりたいと思います。

今年には泉州の小児救急輪番病院も担当することとなり、皆さまに良い医療を提供する機会が増えました。また、大阪府の小児中核病院 8 病院の 1 つにも指定されました。10 月 25 日には和泉市・和泉市立総合医療センターと連携協定を結び、当センターの患者さんが総合医療センターの巡回バス（光明池駅にバス停があります）をご利用いただける予定です。また、当センター内で母子健康手帳の交付サービスも開始するなど皆さまの利便性の向上につながる事業を始めました。

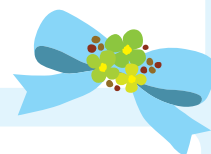
当センターは妊産婦・新生児そして子ども達に高度・専門的な医療を提供することが責務ですが、同時に「ローリスクのお産も担当することや、どのような子どもの病気にも幅広く対応すること」も非常に重要だと考えています。皆さまには、とくに問題がないと思われる「普通のお産」も、予約されていない方の「突然のお産」も、当センターでは喜んでお引き受けしていることをぜひ知っていただきたいと思います。

当センターでは単に、安全にお産していただくだけでなく、妊婦さんが抱える様々な問題、例えば心の問題や産後の育児の悩み、にもセンターをあげて取り組んでいます。また、麻酔の専門医が担当することで安全性を担保した無痛分娩も積極的に行っています。小児の患者さんについても、退院後の心の問題や発育・発達を含めた長期にわたるフォローアップなどは大変重要なテーマと考えています。

私たちは、さまざまな面から患者さんご家族を支援することも重要であると考えています。皆さまの窓口となる「患者支援センター」もますます充実させましたので、ご利用いただきたいと思います。医療費後払いシステム（メディカルゲート）もぜひご活用ください。診療が終わればそのままお帰りいただけ、支払いのため長々とお待ちいただくことがなくなります。

当センターは、府内で分娩数が最も多い施設の一つですし、多くの子どもの病気の治療数でも府内トップです。全国的に見ても規模が大きく、周産期・小児のすぐれた医療を提供できる施設の一つと自負しています。それだけに、われわれは今後もますます努力し発展していかなければならないと考えています。

来年もご支援をどうぞよろしくお願いいたします。



面会制限のお願い

新型コロナウイルス感染症の流行状況により変更となる可能性がございます。
ご来院の前に、ホームページの「ご来院に際して」などをご確認ください。

小児棟

- 12～20時の間
- ご両親のみ
でお願いします

母性棟

- 個室のみ
- 週1回30分以内
- 夫・パートナーのみ
- 15～20時の間
でお願いします

(2022年12月20日現在)



てんかんを知ろう

脳は、体のコントロールタワーです。我々の脳は、ふだんは必要な情報を「おだやかな電気信号」として上手に伝えて、目や耳などから入ってくる情報を判断して、手足を動かす指令を出しています。この電気信号が暴走して強い火花を出し、火花の出ている部位の脳の症状である「てんかん発作」を繰り返す病気が「てんかん」です。

てんかん患者さんの多くは脳が成長する小児期に発症しますが、その有病率は人口の約1%と多く、よくある小児の慢性疾患です。発作が何度も起これば、今後起こらないように予防治療をすることが必要です。発作にはいくつかの種類があり、それぞれ治療に使う薬が異なります。倒れて体がぐくする大きな発作（全身けいれん）が有名ですが、体が一瞬びくっとするだけや、数秒ぼんやりするだけのように、てんかん発作とはわかりにくいタイプもあります。このようなエピソードを繰り返す場合は、てんかんに疑って検査をします。

「脳波検査」は、頭にのりで電極を貼り、脳の中から出る電気信号を頭の外からひろって検査です。火花の元になる種火（どんな種類の種火がどこにどのくらい出ているか）を確認するには非常に有効で、当センターでは毎日多くの脳波検査を実施しています。種火は睡眠中に多く出るため、脳波検査時には眠くなる薬を飲んで寝てもらふことが多いですが、眠るだけで痛みはなく、体に優しい検査です。当センターでは、非発作時の種火だけでなく、発作そのものをビデオと脳波で同時に確認する「ビデオ脳波システム」も完備しており、正確なてんかん診断を心がけています。

問診と脳波から、てんかんかどうか、てんかん発作だとしたら何発作か、ということがわかったら、「抗てんかん薬」という飲み薬を毎日内服して、脳の電気信号が暴走しないように数年かけてじっくり治療していきます。治療では薬を忘れないように根気強くしっかり飲むことが最も大切です。内服治療でうまくいかない場合、あるいは特殊な基礎疾患をもつてんかんの場合は、脳外科治療や「ケトン食」という食事療法を実施することもあります。当センターでは栄養士と連携してケトン食治療にも積極的に取り組んでおり、手軽で継続しやすいメニュー本も出しました（院内コンビニで販売しています）。治療により数年間発作がゼロになれば、内服薬を減量して中止することが可能な患者さんも出てきます。

てんかんは一般に難治疾患と思われがちですが、小児期発症のてんかん患者さんの半数以上はてんかんがなおった状態（＝寛解）となり、笑顔で母子医療センターを卒業していきます。

（小児神経科 部長 柳原 恵子）

お知らせ

大阪母子医療センター・和泉市連携協定

和泉市にお住まいの方は
初診時に当センターで
母子健康手帳を
受け取ることができます。

受け取り方法

当センターの初診問診票を記入
▼
和泉市保健センターの保健師と面談
▼
母子健康手帳のお渡し

最新の治療・動向・センターの強み

血液・腫瘍科って何してるの



当科では、白血病、その他の血球の病気、そして小児がんをわずらった子どもたちの治療とトータルケアを行なっています。

大阪府下では、子どもの白血病（および類縁の病気）は毎年約50人、子どものがん（悪性腫瘍）も50～100人に発生しています。まれな病気とも言えますが、どこでも地域差なく発生してきます。

白血病は抗がん剤を使った点滴治療（化学療法）で治します。骨髄移植をする場合もあります。悪性腫瘍は、小児外科、脳神経外科を始め、いろいろな科からご紹介されることも多く、これら外科の先生や、放射線科の先生と協力しあって治していきます。現在では、多くの子どもたちに、治療スケジュールを乗り越えた先にある「治癒（根治）」が目指せるようになっていきます。

半年～1年間の断続的な入院生活は、しんどいこともあるけれども、だからこそ、お母さん、お父さん、また看護師さん、保育士さん、ホスピタルプレイ士さん、心理士さん、理学療法士さんを始めとする多くのスタッフとともに、できることは自分でもしつつ、しっかりサポートも受けての入院生活となっています。入院環境の中にも学校、遊び場、さまざまなイベントもあります。

退院後は、体力を回復させつつ、幼稚園や学校に復学していきます。クラスのみなが待ち望んでくれています。お友達からの良きパワーをいっぱいもらって下さい。また担任や保健の先生方とも連携します。クラスのみなさんも、もしクラスにそのようなお友達が帰ってきたら、いつも助けがいるわけではありません、まずはただ温かく迎えてあげていただければと思います。

血液・腫瘍科部長 就任のごあいさつ

2022年4月から血液・腫瘍科部長に就任しました澤田明久と申します。1996年から当センターに勤務して以来、河敬世先生、井上雅美先生とともに診療に従事して参りまして、私は3代目となります。

当センターでは、小児がん診療の基幹病院として、子どもの白血病、悪性腫瘍を治療しています。血球減少症や免疫疾患にも対応しています。また小児造血細胞移植の基幹病院として、全国から移植を依頼いただいております。

治療は進化しています。最善、最良の治療を提供しつつ、安心して治療を受けられる場の整備にも努めています。治療中も遊び、学ぶことに根ざす子どもらしい生活が維持され、その後はそれぞれの日常へ復帰できるようサポートしています。どうぞよろしくお願い致します。

（血液・腫瘍科 部長 澤田 明久）



小児
+
救急

小児救急輪番制に
参加しています

当センターは、地域の小児救急体制維持のため
泉州地域の小児救急輪番制に参加しています。
第1・4日曜日 23時～翌月曜日 6時
詳細はホームページをご覧ください▶





支援金をいただきました

公益財団法人 日本財団様の「新型コロナウイルス感染症対策整備支援（日本小児総合医療施設）」事業に採択いただき、支援金を頂戴しました。

日本財団様は、新型コロナウイルス感染症が大きく広がり生活様式が変化していく中でも、人々の安心安全を守りたいという思いから、全国の子ども病院に向けた支援の実施を決定されたそうです。

今回頂戴しました支援金を使用して、当センターでは患者様により良い療養環境を提供させていただくため、寝心地の良い「マットレス」や WEB 面会・学習ツール利用のための「ノート型 PC・タブレット端末」などを購入させていただいたほか、リハビリ用の「フィットネスバイク」や感染症対策に用いる機器など、たくさんの物品を購入することができました。

コロナ禍の中、たくさんの方々からご寄附・ご支援を頂戴しております。また、職員にもたくさんの応援のお言葉をいただき、励みになっております。皆さま、本当にありがとうございます！

(施設保全グループ)



リハビリ用フィットネスバイク



ノート型パソコン



タブレット端末



RECIPE

医師・栄養士監修

まいたけと春菊のおろし煮

「春菊」だけど冬が旬！
春菊のいろいろ



春菊は、春に黄色い花を咲かせることから「春菊」と呼ばれています。年中手に入れることができますが、旬は 11～2 月ごろで葉や茎が柔らかく、風味もよくなります。関西では、「菊菜」とも呼ばれ、関東などで栽培される春菊と比べると、葉が丸く切れ込みも浅く、苦みやえぐみが比較的少ないのが特徴です。

春菊はβ-カロテン、ビタミン B 群、ビタミン C、カルシウムなど様々なビタミン・ミネラルが含まれており、栄養価の高い野菜です。

春菊は加熱しすぎると、苦みが強くなってしまいうため、さつとゆでるくらいの加熱にとどめることがポイントです。

今回は、香りがよく食感のよいまいたけと合わせたおろし煮です。さっぱりといただくことができ、病院の食事でも提供している一品です。

(栄養管理室)

材料 (2 人分)

- まいたけ・・・1/2 袋 (40g)
- 春菊・・・1/3 袋 (60g)
- 大根・・・厚さ 2cm (80g)
- だし・・・80g
- うすくちしょうゆ・小さじ 1 (6g)
- みりん・・・小さじ 1/3 (2g)

1
下ごしらえ

まいたけは小房に分ける。
春菊はゆでて 2cm の長さに切る。
大根はすりおろして、水気をきる。



point /

水っぽくならないように、春菊と大根は水気をきりましょう

2
ゆでる

鍋にだしを入れて火にかけ、煮立ったらしょうゆ、みりんを加えてまいたけを入れて煮る。まいたけが柔らかくなったら春菊を加えてひと煮立ちさせ、大根おろしを加えて火をとめる。

大阪母子医療センターの医師と栄養士による食育レシピ「こどもの心と体の成長・発達にいい食事 II 乳児期」P.63 に掲載されています

地方独立行政法人大阪府立病院機構

大阪母子医療センター

〒594-1101

大阪府和泉市室堂町 840

電話 0725-56-1220 (代)

FAX 0725-56-5682



モコニャンお誕生日おめでとう

たくさんの
お誕生日プレゼントを
ありがとう
ございました！

2022
11/26
SATURDAY

